

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-3

<44週> 流行性耳下腺炎 - 第19週よりここ10年間で最大の定点
当たり報告数が持続している / その他最新動向



注目すべき感染症
P.4

<感染性胃腸炎> 第39週より患者報告数が徐々に増加し始め、第
44週の全国定点からの報告総数は9,292、平均の定点当たり報告
数は3.08となっている

<腸管出血性大腸菌感染症> 発生状況グラフ



病原体情報
P.5

患者から分離・検出された病原体報告 - 感染性胃腸炎 / Vero毒
素産生性大腸菌



速報
P.6

日本のAIDS患者・HIV感染者の状況 - エイズ動向委員会委員長コ
メント(要旨)



海外感染症情報
P.7

米国の炭疽 - 抗菌薬の副作用 / 西ナイルウイルスの活動性 - 米
国 / サウジアラビアへの巡礼者に4価の髄膜炎菌ワクチン接種を
要求 - 英国



感染症の話
P.8-12

インフルエンザ

インフルエンザウイルスを病原とする気道感染症で
あるが、個体や社会に対する影響の重大性から「一
般のかぜ症候群」とは分けて考えるべき疾患である



炭疽症に関する
緊急対応情報

読者のコーナー
P.13



グラフ総覧(44週)
P.14-20



44週のデータ
P.21-28



発生動向総覧

第44週コメント 11月9日集計分

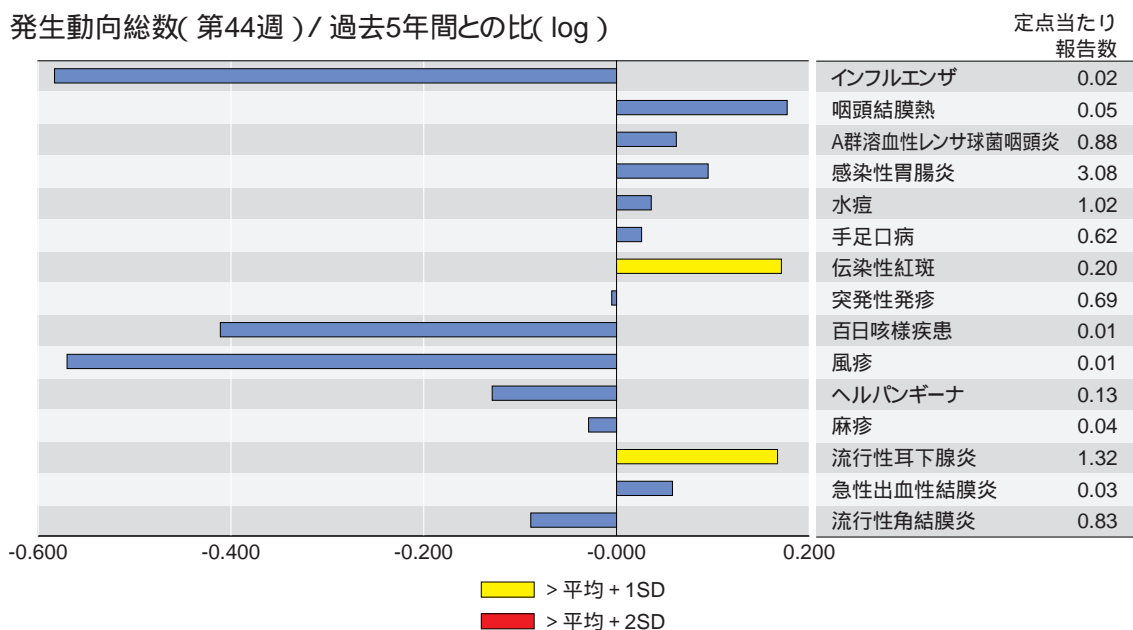
全数報告の感染症

- 1類感染症: 報告なし
- 2類感染症: 細菌性赤痢8例(推定感染地: 国内1例、パキスタン2例、中国、ベトナム、タイ、ミャンマー、不明各1例) 腸チフス1例(推定感染地: フィリピン)
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症23例(腸管出血性大腸菌感染症の発生数の推移については、4ページ「注目すべき感染症」を参照。)
- 4類感染症: アメーバ赤痢3例、クロイツフェルト・ヤコブ病1例(孤発性)、ツツガムシ病15例(うち広島県5例)、日本脳炎1例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例(vanC型)、レジオネラ症2例
 - 急性ウイルス性肝炎3例
 - A型1例
 - B型2例__感染経路: 性的接触1例、不明1例
 - 後天性免疫不全症候群13例(AIDS 3例、無症候性キャリア10例)
 - 感染経路: 性的接触10例(同性間7例、異性間3例)
 - 不明3例
 - 梅毒8例(早期顕症2例、晩期顕症1例、無症候5例)

定点把握の対象となる4類感染症(週報対象のもの)

感染性胃腸炎は年末のピークに向け患者報告数の増加が見られている。定点当たり報告数が多くなっているのは、鳥取県(6.4)、福井県(6.2)、宮崎県(5.7)、熊本県(5.4)、石川県(5.3)、大分県(5.2)などである(感染性胃腸炎の詳細な情報については4ページ「注目すべき感染症」参照)。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は、第19週よりここ10年間で最大の定点当たり報告数が持続している。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数が多くなっているのは、石川県(6.2)、沖縄県(4.3)、富山県(4.2)、長野県(4.1)などである。

発生動向総数(第44週)/過去5年間との比(log)

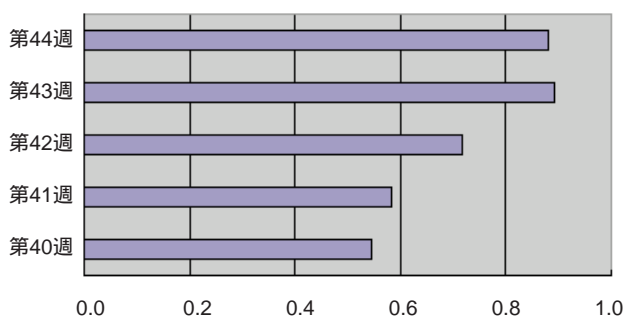


当該週と過去5年間の平均(過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均)の比を対数にてグラフ上に表現した。1標準偏差を超えた場合黄で、2標準偏差を超えた場合赤で色分けしている。

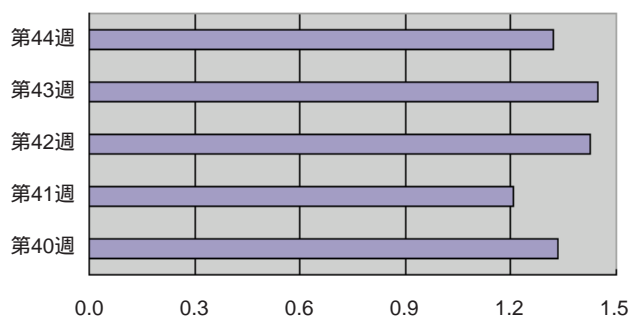
最近の注目疾患－5週間の動き

感染性胃腸炎、水痘の定点当たり報告数は5週連続で増加しており、今後年末のピークシーズンに向け患者数の増加が予想される。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は前週よりわずかに減少した。基幹病院定点からの報告疾患であるマイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は前週より増加し、昨年、一昨年に比べると定点当たり報告数の多い状態が続いている。

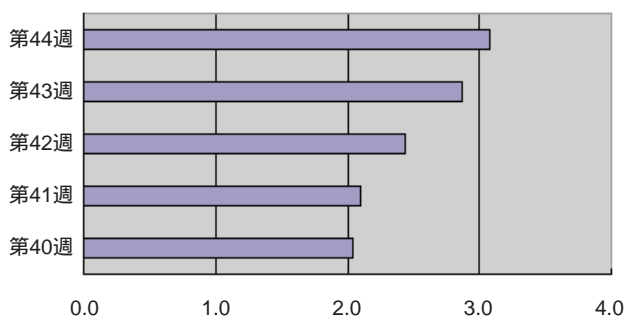
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



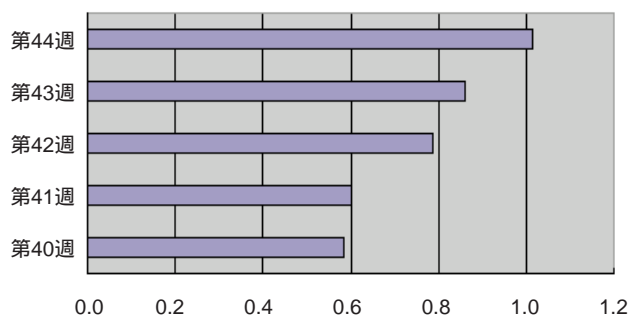
流行性耳下腺炎



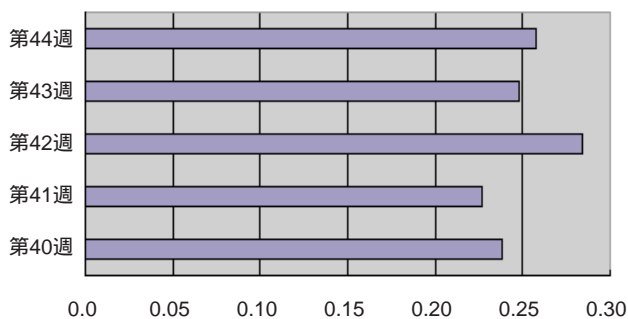
感染性胃腸炎



水痘



マイコプラズマ肺炎



(注) グラフの横軸は各疾患の定点当たり報告数(報告総数/定点総数)を表す。疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意。



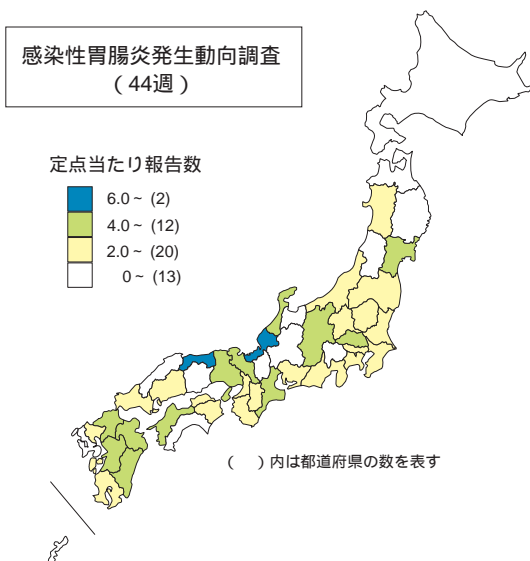
注目すべき感染症

感染性胃腸炎流行状況

感染性胃腸炎のサーベイランスはいわゆる症候群サーベイランスであり、嘔吐・下痢を主症状とし、原因は種々の感染性病原体による。原因はウイルス感染(ロタウイルス、SRSV: Small Round Structured Virusなど)が圧倒的に多く、サーベイランスによって得られる流行曲線はこの2種のウイルスによる感染性胃腸炎の動向を反映し、毎年秋から冬にかけて流行が見られる。旧サーベイランス(1999年3月以前)では乳幼児、特に6カ月から18カ月くらいの月齢のものが罹患するロタウイルスによるものを「乳児嘔吐下痢症」の疾患名を挙げて調査を行っていたが、このなかには、SRSV(ノーウォーク様ウイルス; NLV、サッポロ様ウイルス; SLV)によるものも多数報告されており、また、感染性胃腸炎の報告の中にもロタウイルスによるものが含まれていたため、臨床症状では分けられないという事実から、新サーベイランスではこれらを「感染性胃腸炎」に一括して調査対象としている。

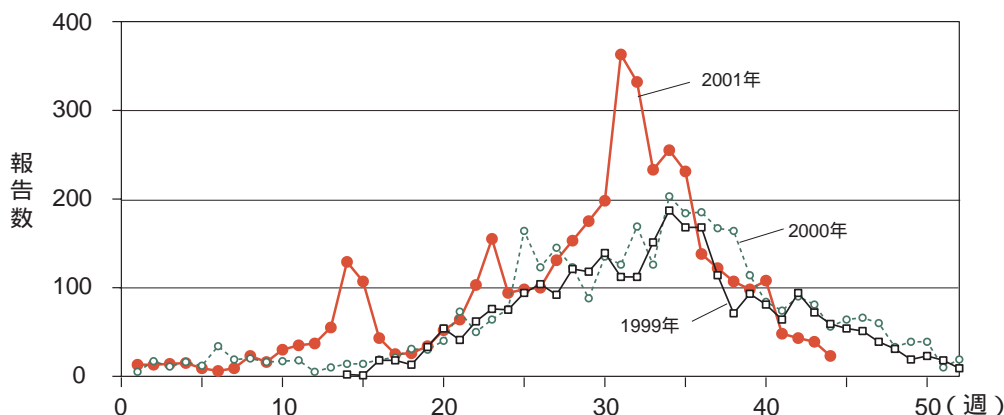
例年10月ごろから報告が増加しはじめ12月頃に一度ピークができた後、春にもう一つなだらかな山ができて、夏季に向かって減少する。ウイルス性、特にSRSVによる流行が12月のピークを形成し、その後春のピークはロタウイルスによって形成され、腸炎ビブリオなど細菌性のものやいわゆる食中毒によるものが夏期の原因になっている。

今シーズンの感染性胃腸炎は第39週より患者報告数が徐々に増加し始め、第44週の全国定点からの報告総数は9,292、平均の定点当たり報告数は3.08となっている。報告が多くなっている都道府県は鳥取県(定点当たり報告数6.4)、福井県(6.2)、宮崎県(5.7)、熊本県(5.4)、石川県(5.3)、大分県(5.2)などである(ウイルスの検出情報については5ページ参照)。



腸管出血性大腸菌感染症流行状況

腸管出血性大腸菌感染症(無症状保菌者含む)発生状況





病原体情報

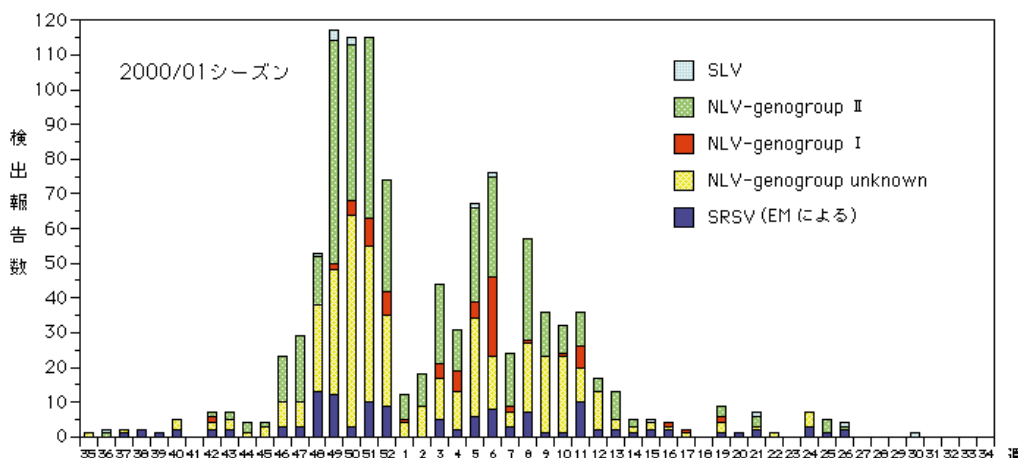
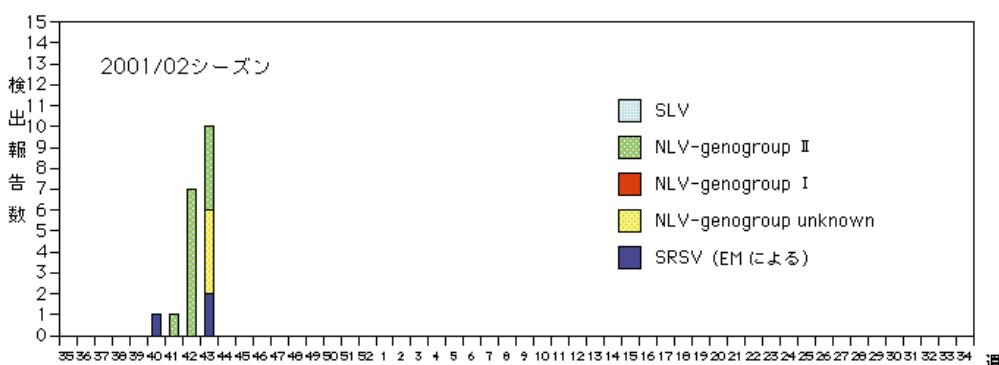
*グラフはIASRホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html>)からの引用です。
(2001年11月9日現在報告分)

感染性胃腸炎 2001/02シーズン

今シーズンのSRSV検出として、第40週に愛媛県から1件、第41～43週に大阪市から13件(ノーウォーク様ウイルス: NLV genogroup II、うち5件が保育園での集団発生)、第43週に秋田県から4件(NLV genogroup unknown)、北九州市から2件報告されている。

検出された SRSV の内訳、2001/02 シーズン

(病原微生物検出情報: 2001年11月9日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。



Infectious Agents Surveillance Report

ヒトから分離されたVero毒素産生性大腸菌O157およびO26検出報告 2001年

本年のVero毒素産生性大腸菌の検出総数は、O157が1,195件、O26が199件である。第30～32週をピークに減少しており、最近の検出はO157が第41週5件、第42週4件(山形県2、岐阜県1、島根県1)、第43週1件(島根県)、O26が第41週に1件(山形県)報告されている。



日本のAIDS患者・HIV感染者の状況(平成13年6月25日～9月30日)

厚生労働省健康局疾病対策課
平成13年10月23日

エイズ動向委員会委員長コメント(要旨)

1. 今回の報告期間は平成13年6月25日～9月30日までの約3カ月であり、法定報告に基づく新規患者報告数は85件、新規感染者報告数は162件であった。
なお、新規感染報告数は前回は144件、前々回が129件であり、3回続けて増加が認められる。
2. 感染経路別に見ると、新規報告のAIDS患者では異性間性的接触によるものが37件、HIV感染者では同性間性的接触によるものが77件とそれぞれ第1位を占めていた。これは前回同様の傾向と言える。患者・感染者の感染経路が不明である例数も前回同様である。
年齢別では前回同様、患者・感染者ともに各年齢層に分布しているものの、患者では30代以上、感染者では20代～30代の占める割合が高い。
性別で見ると、患者・感染者とも男性が8割以上を占めており、これは前回同様の傾向である。男性感染者の半数以上は同性間性的接触による。男性エイズ患者では同性間性的接触より異性間性的接触による報告数が多かった。女性では感染者・患者とも異性間性的接触によるものが大多数を占めていた。
3. 保健所におけるHIV抗体検査・相談受付実施件数の平成13年第3四半期までの累計報告数を集計した。検査件数は52,530件(平成12年1年間における検査件数は48,754件)、相談件数は105,443件(平成12年1年間における相談件数は107,266件)であり、今後の推移に注目していきたい。
4. 前回のエイズ動向委員会で指摘した「病院清掃業者の針刺し事故」について、疾病対策課より関係省庁および都道府県に対し情報提供を行うとともに使用済み医療器具によるHIV感染の危険性について注意喚起を行ったという報告を受けた。



海外感染症情報

* 関連の情報やさらに詳しい情報については、FORTHホームページ(<http://www.forth.go.jp/>)をご覧ください。

米国の炭疽 - 抗菌薬の副作用

MMWR 2001年11月9日

10月8～10日の間にフロリダ州ボカラトンのA社で1,132名が炭疽の曝露を受けたと思われることから初期の発症予防の抗菌薬投与を受けた。970名(86%)にシプロフロキサシンが投与された。予防内服開始の14日後に、情報が得られた1,000名のうち、797名がまだ抗菌薬を服用していた。

抗菌薬の内服を行っている490名(62%)の抗菌薬による副作用を評価するために、予防投与の7日目もしくは14日目にアンケート調査が行われた。490名のうち95名(19%)が次の症状を1つ以上報告した。掻痒感、呼吸困難、顔面や頸部や咽頭の腫脹、抗菌薬投与による副作用で医療を受けるなどである。95人について診療記録の検討や電話での聞き取り調査により16名が治療を受け、抗菌薬による副作用の可能性のため予防投薬を中止したことがわかった。抗菌薬の予防投薬の開始と症状の発現との間の時間的な関連、受けた医療行為、基礎疾患を明らかにするため、6名に詳細なアンケート調査が実施された。2名は外来、さらに2名は救急部で、残りの2名は入院した。アナフィラキシーなど副作用に起因する病歴や客観的な症状がある人はいなかった。

西ナイルウイルスの活動性 - 米国

MMWR 2001年11月9日

10月31日～11月6日の1週間に西ナイルウイルスによる脳炎・髄膜炎患者5名が、ニューヨーク州(4名)、コネチカット州(1名)で報告された。今年これまでに42名の西ナイルウイルスによる脳炎・髄膜炎患者が、フロリダ州(10名)、ニューヨーク州(10名)、コネチカット州(6名)、メリーランド州(6名)、ニュージャージー州(6名)、ペンシルバニア州(3名)、ジョージア州(1名)で報告されている。42名のうち22名(52%)が男性で、年齢の中央値は70.5歳(年齢は36歳から90歳)であった。発症日は7月13日～10月7日であり、2名が死亡した。

サウジアラビアへの巡礼者に4価の髄膜炎菌ワクチン接種を要求 - 英国

CDR Weekly 2001年11月8日

今週、イングランドの保健局はサウジアラビアへの巡礼者に対する情報の提供を開始し、その中で巡礼に際して4価の髄膜炎菌ワクチン接種が必要であることを強調した。サウジアラビアへの巡礼にはハジ(メッカ巡礼)およびウムラ(小巡礼)が含まれる。2002年のハジは、2月最終週の5日間行われる予定である。小巡礼は1年のうちでいつでも行えるが、ラマダン期間中(今年は、2001年11月17日から始まる)に行くことが好まれている。毎年、サウジアラビア当局はハジまたはウムラに行く4万人の英国人巡礼者に特別なビザを発行する。

巡礼以外でサウジアラビアや他の国に行く旅行者に対してはA/C多糖類髄膜炎ワクチンが引き続き推奨される。



感染症の話

インフルエンザ

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを病原とする気道感染症であるが、個体や社会に対する影響の重大性から「一般のかぜ症候群」とは分けて考えるべき疾患である。流行が周期的に現われてくるところから、16世紀のイタリアの占星家たちはこれを星や寒気の影響(influence)によるものと考え、これがインフルエンザ(influenza)の語源であると言われている。インフルエンザは、いまだ人類に残されている最大級の疫病である。

疫学

毎年世界各地で大なり小なりインフルエンザの流行がみられる。温帯地域より緯度の高い国々での流行は冬季にみられ、北半球では1～2月頃、南半球では7～8月頃が流行のピークとなる。熱帯・亜熱帯地域では、雨季を中心としてインフルエンザが発生する。

わが国のインフルエンザの発生は、毎年11月下旬から12月上旬頃に始まり、翌年の1～3月頃に患者数が増加、4～5月にかけて減少していくというパターンを示すが、夏季に患者が発生し、インフルエンザウイルスが分離されることもある。流行の程度とピークの時期はその年によって異なる。昨シーズン(2000/01シーズン)は、近年になく流行の開始が遅く、1月下旬になってようやく流行が始まり、3月の中旬が流行のピークとなった。感染症発生動向調査による定点当たり報告数でみると、1987年にインフルエンザ様疾患定点サーベイランス開始以降、1993/94シーズンに次いで2番目に小さい流行だった。流行の主流となったウイルスはA/H1N1(ソ連型)およびB型で、とくに後半B型の分離報告が増加し、A/H3N2(香港型)の分離は比較的少数であった。抗原分析の結果、A/H1N1ではA/New Caledonia/20/99(ワクチン株)類似株が圧倒的多数であり、B型では今シーズン(2001/02シーズン)のワクチン株であるB/Sichuan(四川)379/99株類似株(ワクチン製造株としてはB/Johannesburg/5/99)が優勢であった。地域によってウイルスの抗原性に多少の違いがみられるが、おおむね全世界でもほぼ同様の傾向であった。

インフルエンザ流行の大きい年には、インフルエンザ死亡数および肺炎死亡数が顕著に増加し、さらには循環器疾患を始めとする各種の慢性基礎疾患を死因とする死亡も増加、結果的に全体の死亡数が増加することが明らかになっている(超過死亡)。ことに高齢者がこの影響を受けやすく、先進工業国などで共通に見られる現象となっている。高齢者の全人口に対する割合が急増している我が国においても、超過死亡は1998/99シーズンには3万人以上も観測され、超過死亡の8割以上は65歳以上の高齢者によってもたらされており、社会的な問題となっている。ほとんどの先進工業国では高齢者のインフルエンザ予防接種は公費負担によって行われており、我が国でも、高齢者に対する予防接種を一部公費負担とする法案が本年10月31日に成立し、11月7日に公布、施行となった。

病原体

インフルエンザウイルスにはA、B、Cの3型があり、流行的な広がりを見せるのはA型とB型である。A型とB型ウイルス粒子表面には赤血球凝集素(HA)とノイラミニダーゼ(NA)という糖蛋白があり、これらが感染防御免疫の標的抗原となっている。とくにA型では、HAには15亜型、NAには9亜型の抗原性の異なる亜型が存在し、これらの様々な組み合わせを持つウイルスが、ヒト以外にもブタやトリなどその他の宿主に広く分布している。このため、人獣共通感染症として動物由来

の亜型ウイルスがヒトの世界にも侵入する。

A型インフルエンザでは、数年から数十年ごとに世界的な大流行が見られるが、これは突然別の亜型のウイルスが出現して、従来の亜型ウイルスに取って代わることによって起こる。これを不連続抗原変異(antigenic shift)という。1918年に出現した新亜型(H1N1)ウイルスによりスペインかぜの大流行がもたらされ、その後その子孫のH1N1型ウイルスの流行が39年間続いた。1957年には新亜型(H2N2)ウイルスが出現してアジアかぜ(H2N2)の大流行が起こり、その子孫ウイルスの流行が11年間繰り返された。その後1968年には香港型(H3N2/HongKong)が現われて香港かぜの大流行を起こし、ついで1977年にソ連型(H1N1/USSR)が再出現して加わり、現在はA型であるH3N2とH1N1、およびB型の3種のインフルエンザウイルスが世界中で流行している。

一方、同一の亜型内でも、ウイルス遺伝子に起こる突然変異の蓄積によって、HAとNAの抗原性は少しずつ変化する。これを連続抗原変異(antigenic drift)という。その結果、過去の感染の際に獲得された免疫機構から逃れる様な抗原変異株ウイルスが生き残って流行を広げる。インフルエンザウイルスではこのような連続抗原変異が頻繁に起こるので、毎年のように流行を繰り返す。

臨床症状

A型またはB型インフルエンザウイルスの感染を受けてから1～3日間ほどの潜伏期間の後に、発熱(通常38度以上の高熱)・頭痛・全身の倦怠感・筋関節痛などが突然現われ、咳・鼻汁などの上気道炎症状がこれに続き、約1週間の経過で軽快するのが典型的なインフルエンザで、いわゆる「かぜ」に比べて全身症状が強いのが特徴である。とくに、高齢者や、年齢を問わず呼吸器・循環器・腎臓に慢性疾患を持つ患者、糖尿病などの代謝疾患・免疫機能が低下している患者などがインフルエンザに罹患すると、原疾患の増悪とともに、呼吸器に2次的な細菌感染症を起こしやすくなることが知られており、肺炎、気管支炎などの合併症を起こし、入院や死亡の危険が増加する。小児ではこれらの合併症に加えて中耳炎を起こしやすく、気管支喘息を誘発することもある。

このような、インフルエンザに罹患すると重症化したり致死的な合併症を起こしやすい人はハイリスク群とよばれ、インフルエンザ対策上、予防・治療の対象として最も優先順位が高いとされている。

小児のインフルエンザ患者に解熱剤としてアスピリン等のサリチル酸製剤を投与すると、稀に脳浮腫・脂肪肝を主徴とする予後不良のライ症候群を起こすことがある。アスピリンの長期投与を受けている小児では、インフルエンザの予防が大切である。

一方、近年インフルエンザの流行期に、幼児を中心とした小児において、急激に悪化する脳炎・脳症などの重症神経系合併症例が増加することが明らかとなり問題となっている。厚生労働省「インフルエンザ脳炎・脳症の臨床疫学的研究班(班長:森島恒雄名古屋大学医学部教授)で行った調査によると、毎年50～200人のインフルエンザ脳炎・脳症患者が報告されており、その約10～30%が死亡している。臨床経過や病理所見からは、上記のライ症候群とは区別される疾患と考えられるが、原因は不明である。インフルエンザ脳炎・脳症の増加の原因については先の研究班で詳細な調査が進行されており、すでに一部の非ステロイド系消炎鎮痛剤の使用との関連性が疑われているため、それらをインフルエンザの治療には使わないよう注意が求められている。(詳細は <http://idsc.nih.go.jp/others/topics/inf-enc.html>を参照)。

ウイルス学的診断

急性期の患者の咽頭拭い液やうがい液からウイルスを直接に分離することが病原診断の基本である。検体を発育鶏卵羊膜腔や組織培養細胞に接種して培養し、増殖してきたウイルスの同定を行うが、これには特別な設備や技術が必要であり、結果が出るまでには約1週間を要する。

患者の血清診断には、従来から補体結合法(CF)、赤血球凝集阻止反応(HI)などが主に用いられているが、いずれも急性期と回復期の抗体価の4倍以上の上昇をもって診断するので、確定診断には2～3週間を要する。CF抗体はウイルスの内部抗原を認識する抗体で、インフルエンザA、B、Cの型別は出来るが、A型ウイルスの亜型の判別は不可能である。この抗体は感染後比較的速やかに消失することが多いので比較的最近の感染の推定に利用することができる。HI抗体は感染後も長期にわたって証明され、また型別、亜型別の判定や抗原変異の程度を比較的簡単に測定することが可能であり、血清疫学調査やワクチンの効果を調べるのに有用である。

患者検体からウイルスの遺伝子を選択的に増幅して検出する遺伝子診断法(RT-PCR)が開発されているが、実験室内の交叉汚染や特異性の問題もあり、結果の判定・評価には慎重さが求められる。

一方、最近では外来あるいはベッドサイドなどで20～30分以内に迅速簡便に病原診断が可能なインフルエンザ抗原検出キットが開発され、その一部は既に実用化されている。これは、患者の鼻腔拭い液を採取して、ウイルス抗原を高感度に検出する方法であり、外来診療などで抗インフルエンザ剤の使用の可否を判断する際には有用な方法で実用性が高い。

予防(ワクチン)・治療

高齢者、慢性呼吸器疾患患者、循環器疾患患者、免疫機能低下患者などの、ハイリスクグループには積極的にインフルエンザワクチンを接種して、インフルエンザによる健康被害を予防するべきである。

現行のインフルエンザワクチンはウイルスの感染やインフルエンザの発症そのものを完全には防御出来ないが、重症化や合併症の発生を予防する効果は証明されており、高齢者に対してワクチンを接種すると、接種しなかった場合に比べて、死亡の危険を1/5に、入院の危険を約1/3～1/2にまで減少させることが期待できる。

また、これらのハイリスク群にウイルスを伝播する可能性の高い医療従事者、介護者、家族などへのワクチン接種も、ハイリスク群における健康被害を減少させる効果が報告されており、積極的なワクチン接種がすすめられる。社会機能の維持・確保のために学校教員、警察官、消防官なども接種の対象となろう。

現在我が国で用いられているインフルエンザワクチンは、ウイルス粒子をエーテルで処理して発熱物質などとなる脂質成分を除き、免疫に必要な粒子表面の赤血球凝集素(HA)を含む画分を密度勾配遠沈法により回収して主成分とした不活化HAワクチンである。現行ワクチンは安全性は極めて高いと評価されている。インフルエンザシーズン前(通常11月中旬～12月中旬)に、65歳以上では1回、13～64歳では1～2回、13歳未満では2回、皮下に接種するが、2回接種の場合には1～4週間の間隔を空ける。

平成13年11月からは、インフルエンザは予防接種法の2類疾病に分類され、1)65歳以上の高齢者、2)60歳以上65歳未満であって、心臓、腎臓もしくは呼吸器の機能に、またはヒト免疫不全ウイルスにより免疫の機能に一定の障害を有する者に対しては、本人の希望により予防接種が行

われ(一部実費徴収)また万一副反応が生じた際には予防接種法に基づいて救済が行われることとなった。

我が国では、世界各地および日本国内の流行情報、WHOによるワクチン推奨株、国内外の分離ウイルスの抗原解析、遺伝子解析などに基づいて、毎年2～3月頃に次シーズンの流行ウイルスを予測する。さらに予想されるウイルスをワクチンとして接種した場合に期待される有効性や抗原変異株への対応性、さらにワクチン製造上の効率などを総合的に検討して、次シーズンのワクチン製造株が選定される。現在はA型のH3N2とH1N1およびB型の3種のインフルエンザウイルスが毎年世界中で流行しているため、原則としてインフルエンザワクチンはこの3種類の混合ワクチンとなっている。2001/02シーズン(今シーズン)には、A/H3N2としてA/Panama/2007/99、A/H1N1としてA/New Caledonia/20/99、B型としてB/Johannesburg/5/99の各株が選択されている。

インフルエンザに対しては、これまでは対症療法が中心とされてきたが、1998年我が国でも抗A型インフルエンザ薬としてアマンタジン(Amantadine)を使用することが認可された。アマンタジンはもともと抗インフルエンザ薬として1964年に発表されていたが、我が国では抗パーキンソン治療薬など精神神経作用薬としてのみ認可されていた。アマンタジンはB型ウイルスには無効である。神経系の副作用を生じやすく、また、患者に使用すると比較的早期に薬剤耐性ウイルスが出現するため、注意して使用する必要がある。

新規に開発されたノイラミニダーゼ阻害薬(ザナミビル、オセルタミビル)は我が国では2001年に医療保険に収載された。ノイラミニダーゼ阻害薬はA型にもB型にも有効で、耐性も比較的できにくく、副作用もほとんどないとされており、発病後2日以内に服用すれば症状を軽くし、罹病期間の短縮も期待できる。

対症療法として解熱剤はインフルエンザに限らずよく使用されるが、必要最小限に留めるべきである。ことにアスピリンは、ライ症候群との関係が推測されており、小児への使用は原則禁忌である。また、インフルエンザ脳症の発症との関連が疑われるため、非ステロイド系解熱剤のうちジクロフェナクナトリウムは禁忌、メフェナム酸は基本的に使用しないよう合意がなされており、必要な場合はなるべくアセトアミノフェンを使用することが推奨されている。

肺炎や気管支炎を併発して重症化が予想される患者に対しては、これらの合併症を予防するために抗菌薬の投与が行われることがある。

インフルエンザ脳症の治療に関しては確立されたものはなく、臨床症状と重症度に応じた専門医療機関での集中治療が必要である。

感染症法の中でのインフルエンザの取扱い

インフルエンザは第4類の定点把握疾患に定められており、あらかじめ指定されたインフルエンザ定点医療機関(小児科約3,000、内科約2,000、計約5,000定点)より毎週、年齢群別患者数が報告されている。報告のための基準は、以下の通りである。

診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下の4つの基準を全て満たすもの

1. 突然の発症
2. 38℃を超える発熱
3. 上気道炎症状

4. 全身倦怠感等の全身症状

なお、非流行期での臨床診断は、他疾患とのより慎重な鑑別が必要である。

上記の基準は必ずしも満たさないが、診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、病原体診断や血清学的診断によって当該疾患と診断されたもの

学校保健法の中でのインフルエンザの取扱い

インフルエンザは学校において予防すべき伝染病第2種に定められており、通常は解熱後2日を経過するまで出席停止となる。しかし病状により伝染のおそれがないと認められたときはこの限りではない。

(国立感染症研究所感染症情報センター)



読者のコーナー

Q: 我々の職場には毎日たくさんの外国郵便が到着するので、郵便物を扱う人々がそれらに炭疽菌が付着している可能性を心配しています。もし不審な郵便物がきたら開けないように、粉が出てきたらその場を立ち去れとか、手を洗えなどという一般的な注意は聞くのですが、感染経路のはっきりしないケースが出て来ていることから、普段の郵便物の仕分け等で本人の自覚無しに感染する可能性があるかと思えます。

国立感染症研究所でこれら諸問題の対処に関してなんらかの情報を持っていらっしゃる方がいたら教えてもらえませんか。特に聞きたいことでは、粉が発見された場合に感染の可能性が強く疑われる人への予防的な(発症前の)抗生物質の投与が効果的であるか否か、また効果のある抗生物質はどここの病院にもあるものであるか、ないのであれば施設として確保しておく必要があるか、などです。

(事業所・医師)

炭疽症に関する緊急対応情報

疑い例を含めて7例の炭疽症患者を経験したニューヨーク市では炭疽症に対する緊急対応情報を治療も含めてウェブ上で提供しています(<http://www.ci.nyc.ny.us/html/doh/html/cd/anthrax.html>)。ニューヨーク在住の医師岩田健太郎さんによるその日本語訳が<http://plaza.umin.ac.jp/GHDNet/01/ny01.htm>に掲載されています。また、米国疾病対策センター(the Centers for Disease Prevention and Control)ではInformation About Anthrax and Bioterrorism(<http://www.cdc.gov/mmwr/indexbt.html>)を公開し、具体的な治療法や現在までに検出された菌の耐性情報についても紹介しています。抗菌薬療法の第1選択はシプロフロキサシンまたはドキシサイクリンとされ、現在のところ検出された炭疽菌はこれらの薬剤に感性です。菌の暴露を受けた可能性がある症例に対しては、上記の抗菌薬のすみやかな予防投与が推奨されています。(日本でもシプロフロキサシンなどのニューキノロン薬は一般的な医療機関に置いてある標準的な抗菌薬です。)

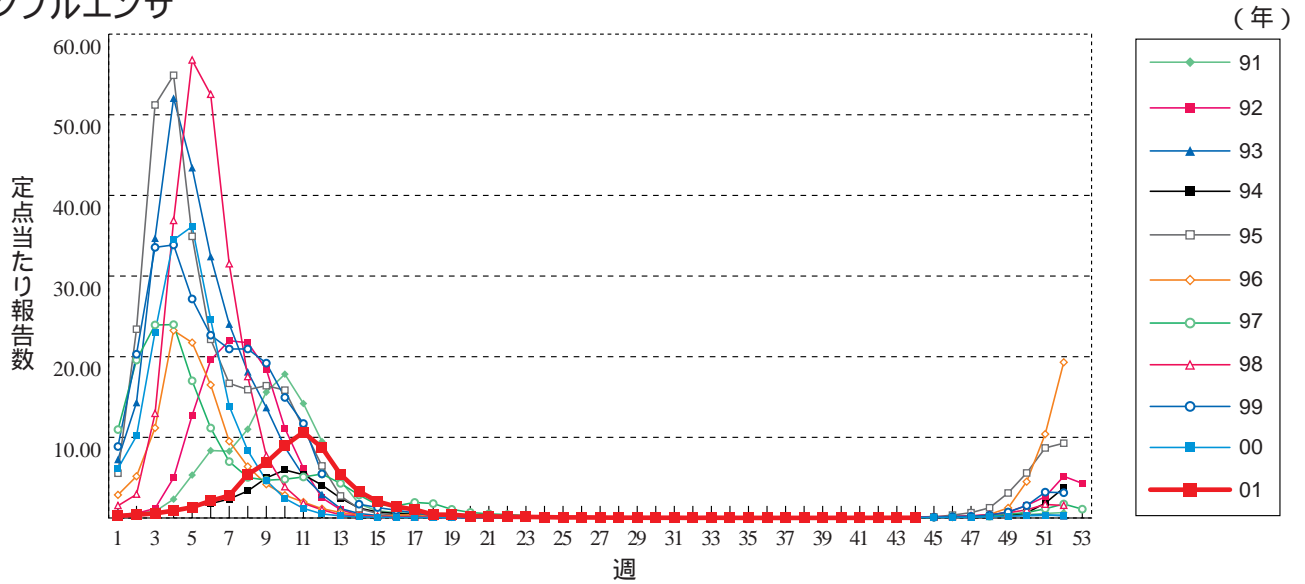
(国立感染症研究所感染症情報センター)

「読者のコーナー」では読者のみなさまからのご意見・ご質問をお待ちしております。
ご意見・ご質問は、題名(タイトル)の一番はじめにidwr-QをつけてこちらまでEメールでどうぞ。

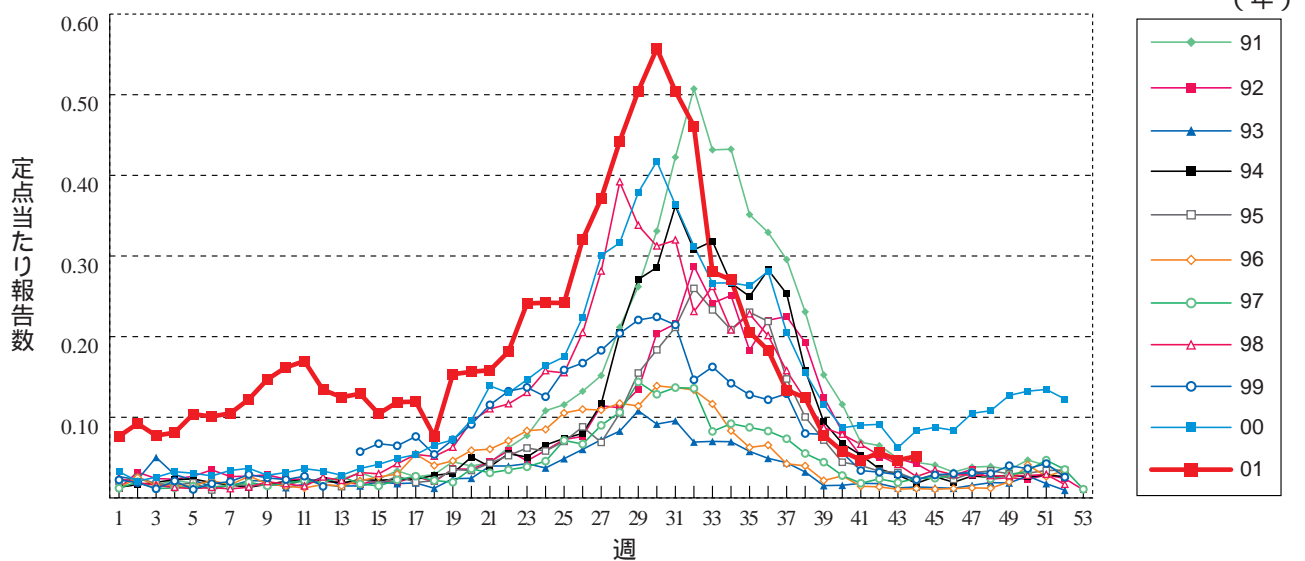
idsc-query@nih.go.jp

グラフ総覧(44週)

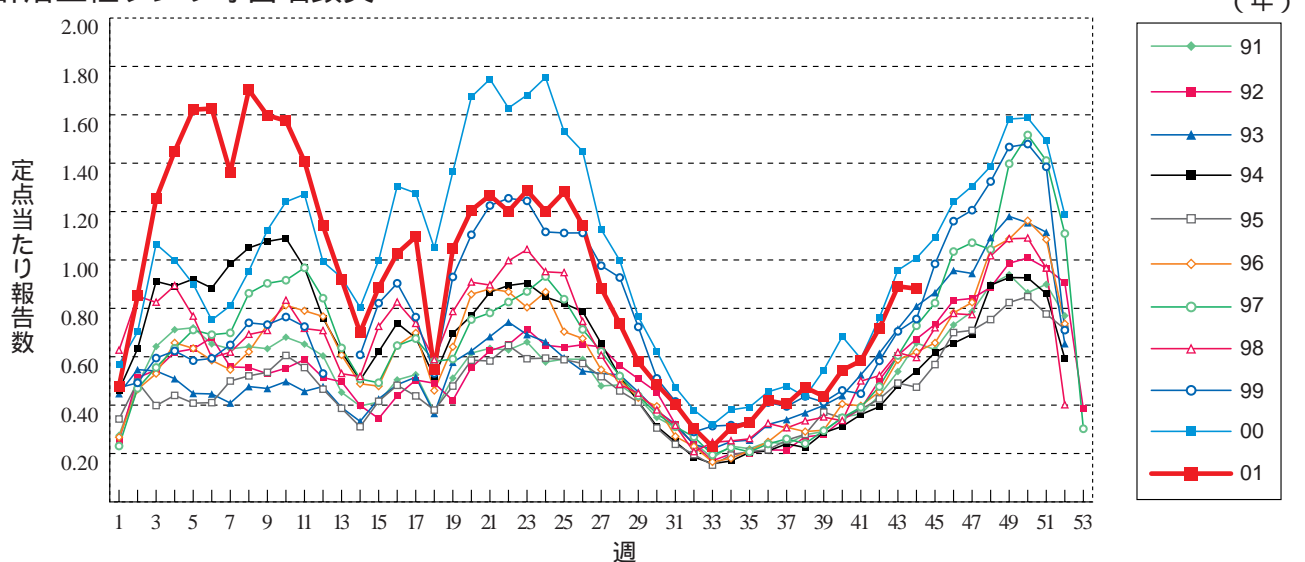
インフルエンザ



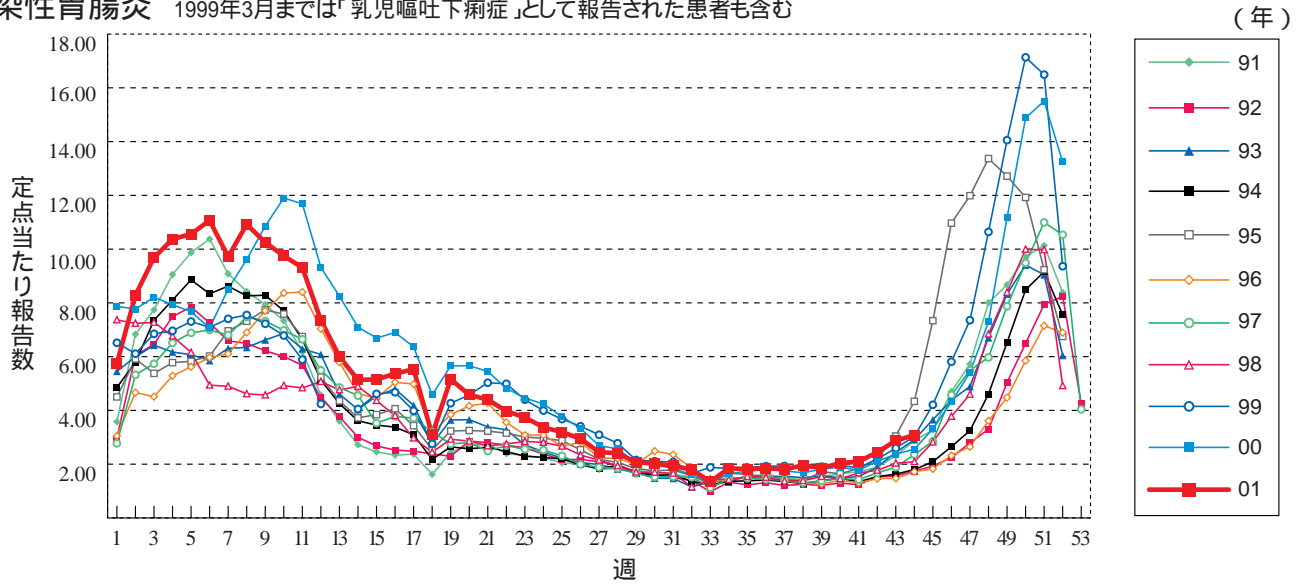
咽頭結膜熱



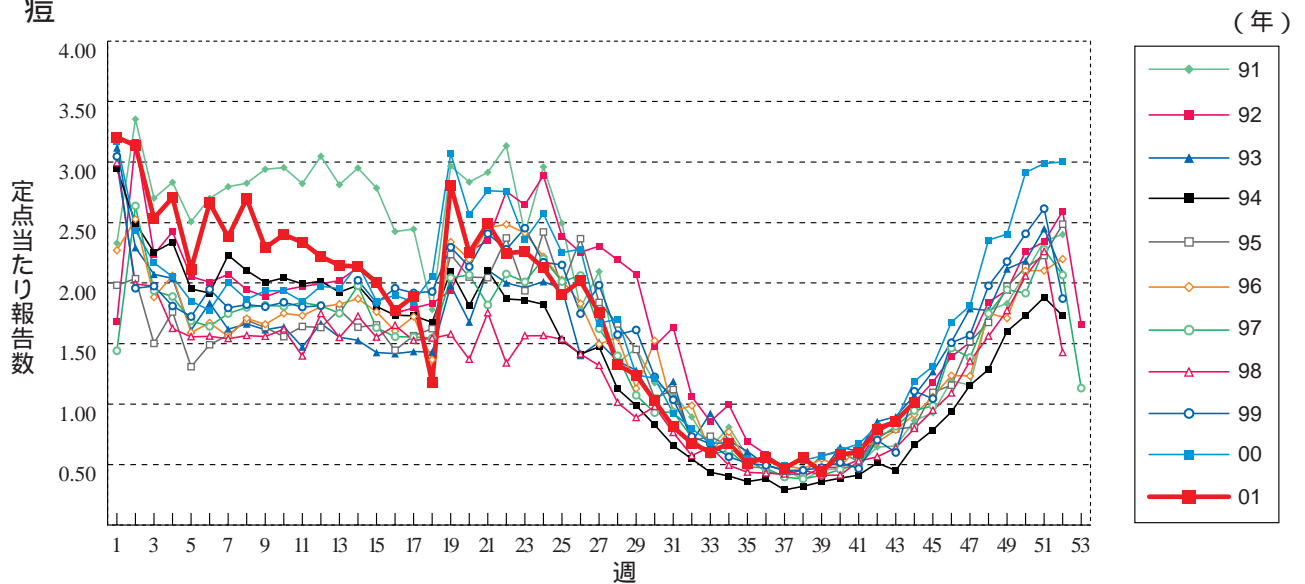
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



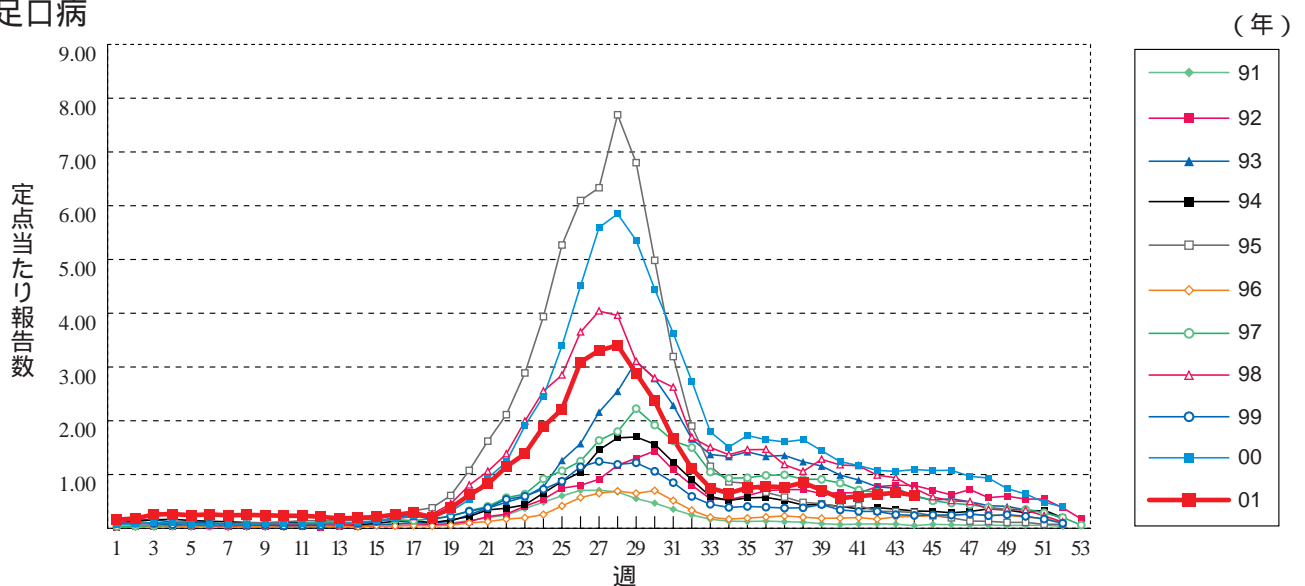
感染性胃腸炎 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



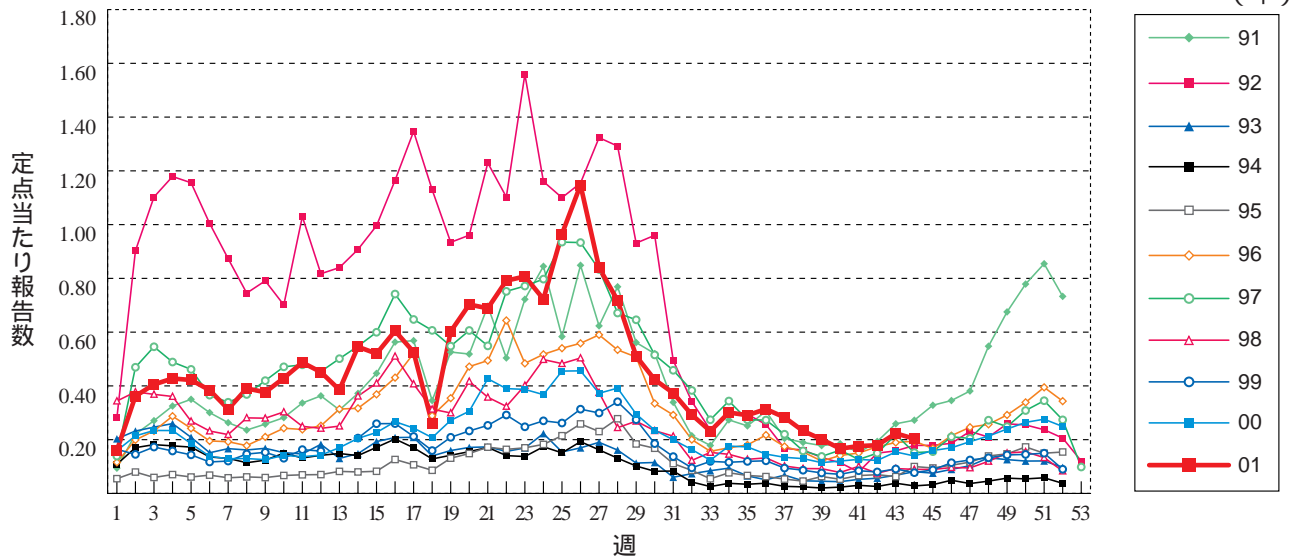
水痘



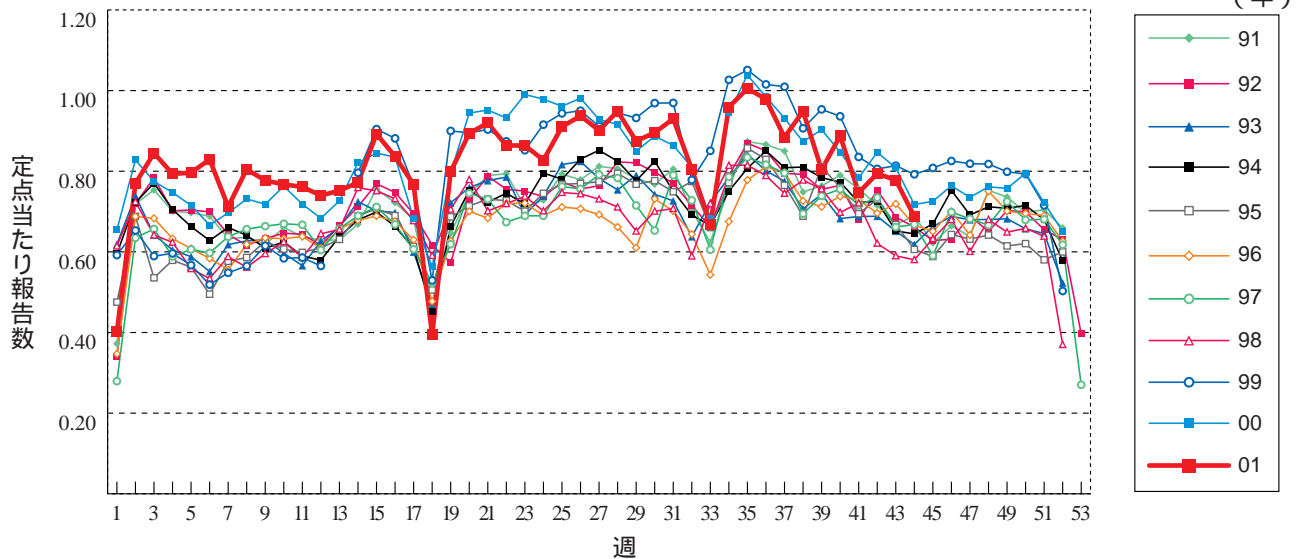
手足口病



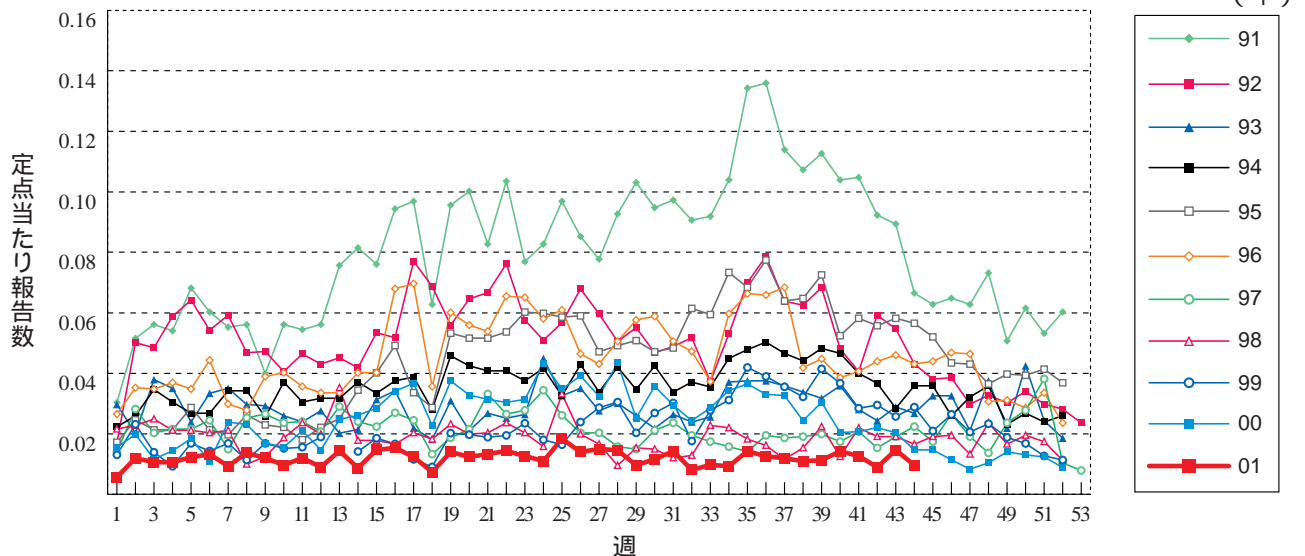
伝染性紅斑



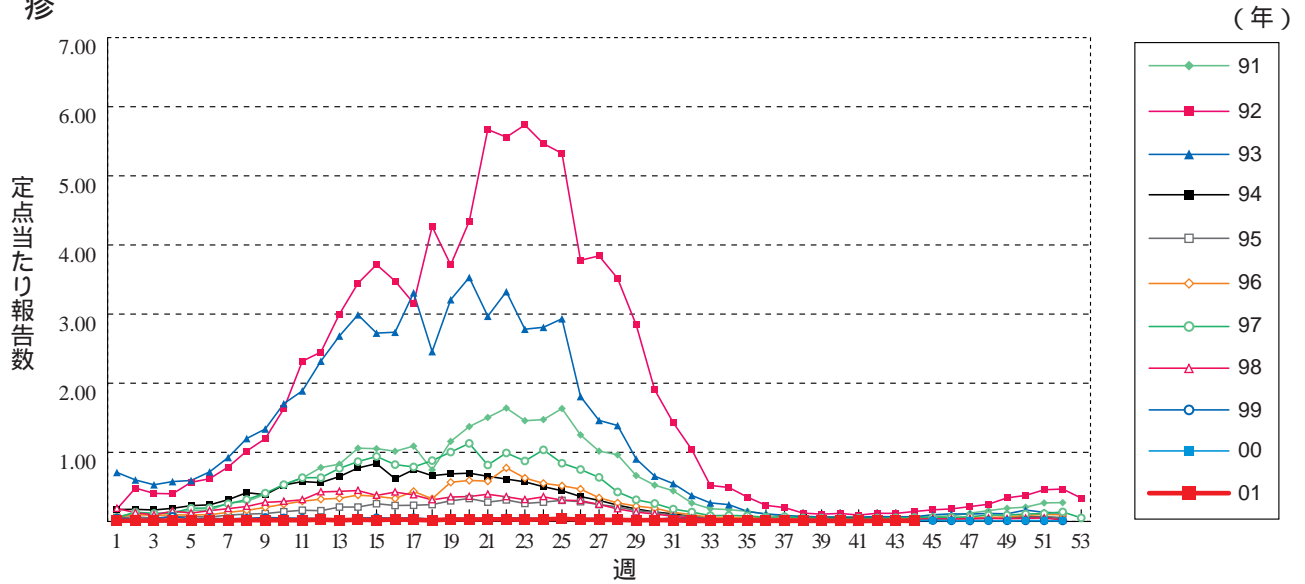
突発性発疹



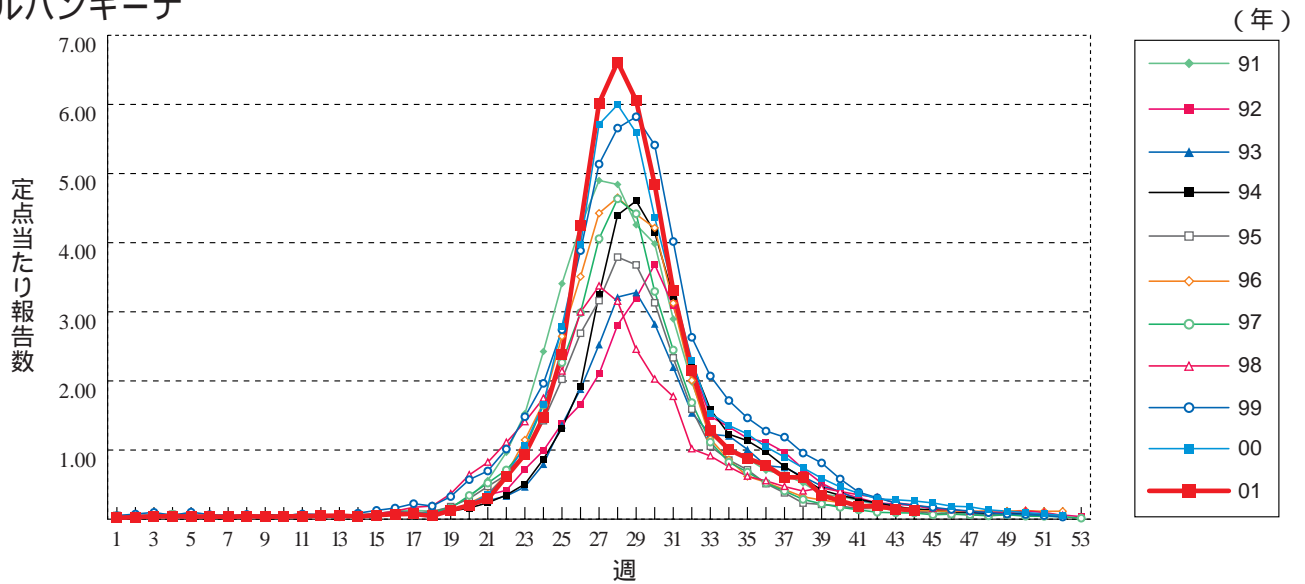
百日咳



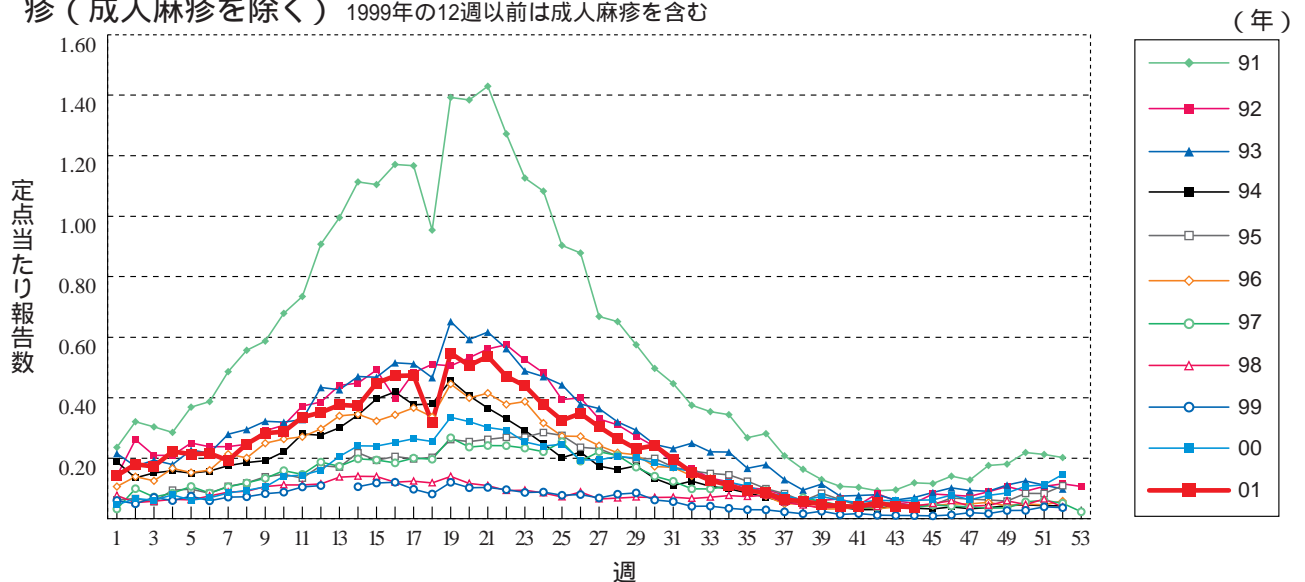
風 疹



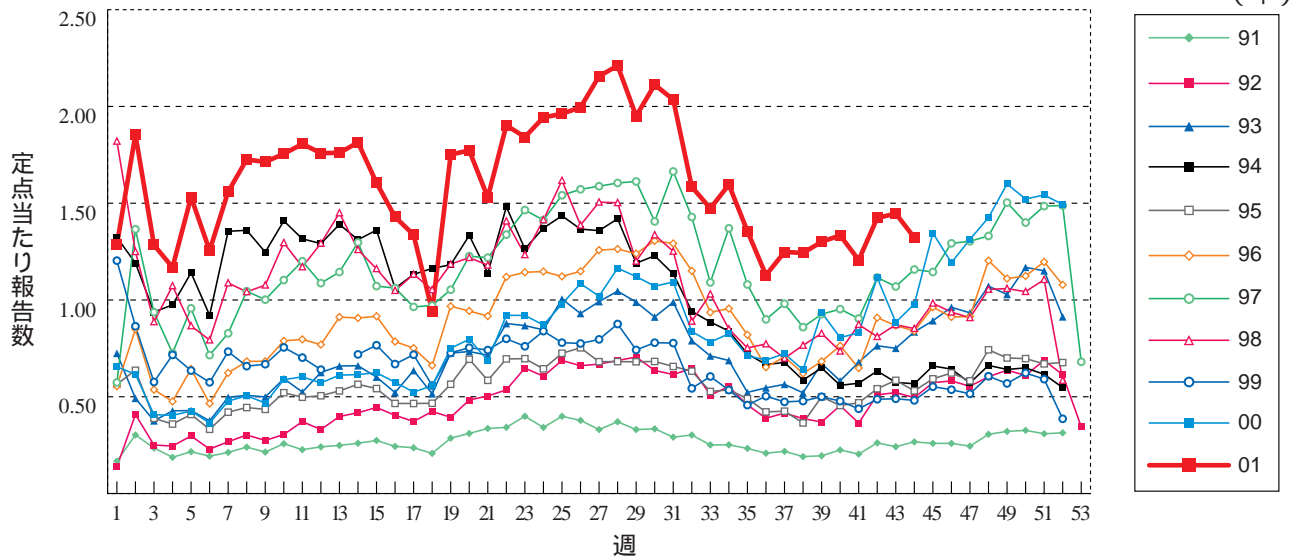
ヘルパンギーナ



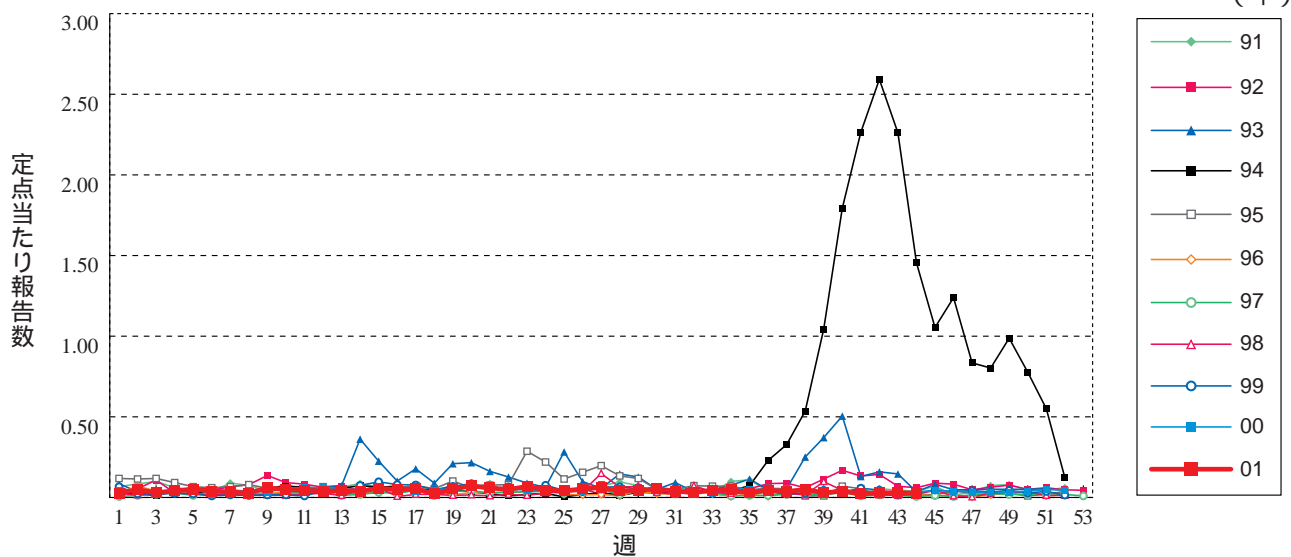
麻 疹 (成人麻疹を除く) 1999年の12週以前は成人麻疹を含む



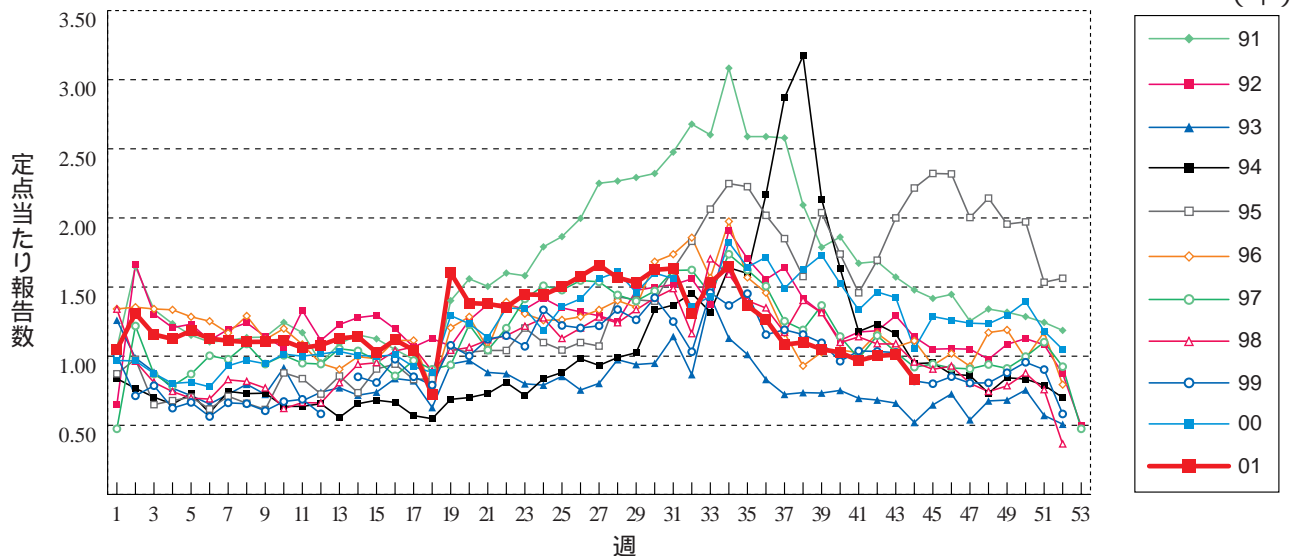
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

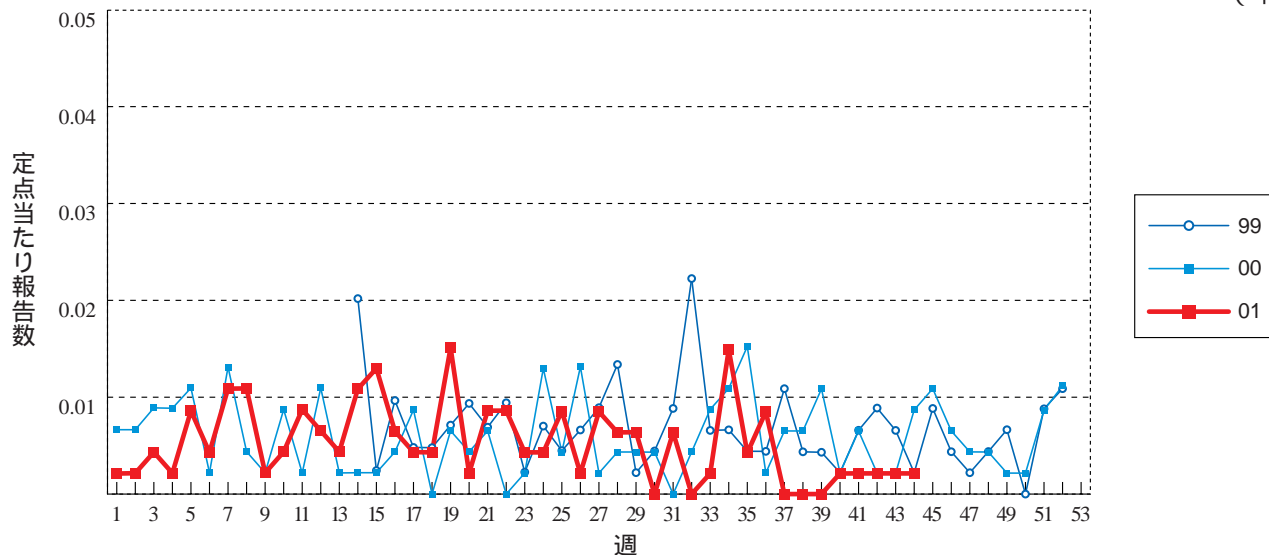


流行性角結膜炎



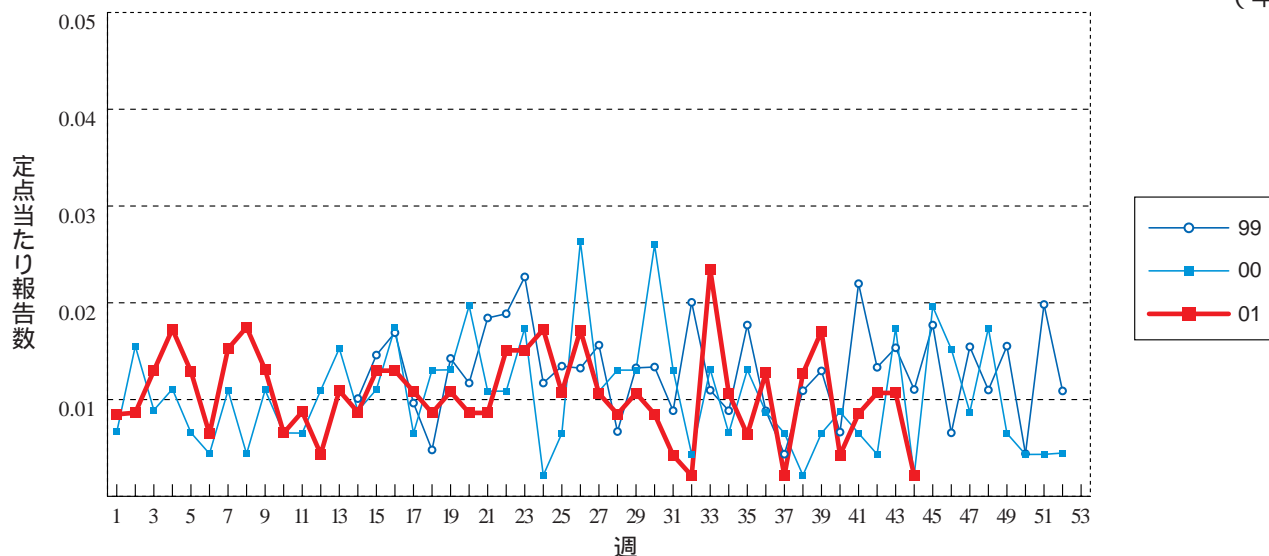
急性脳炎 (日本脳炎を除く)

(年)



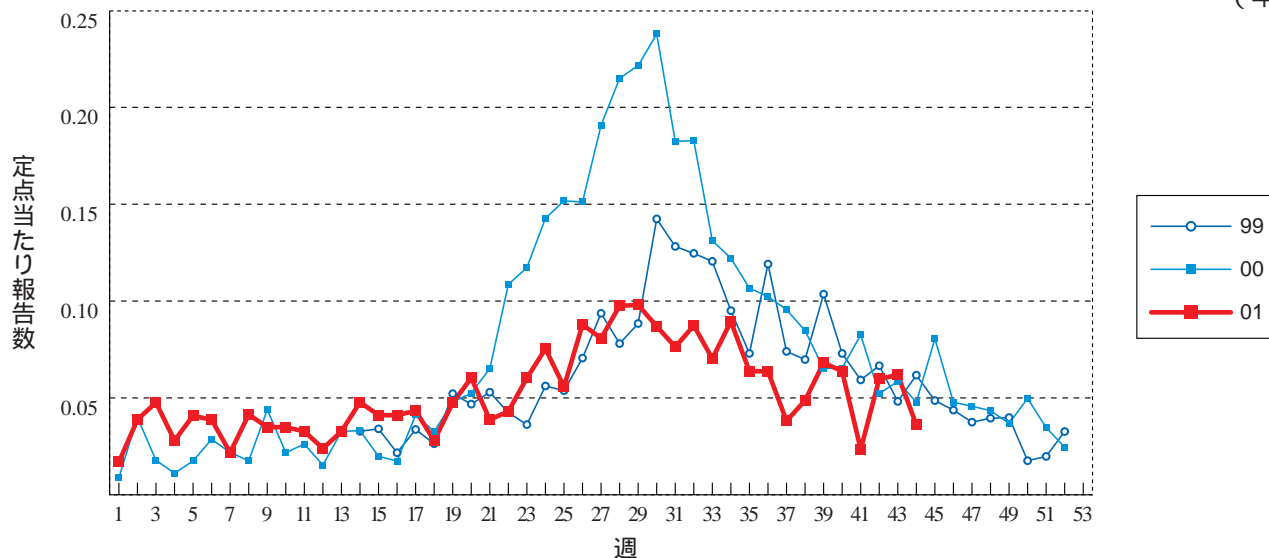
細菌性髄膜炎

(年)

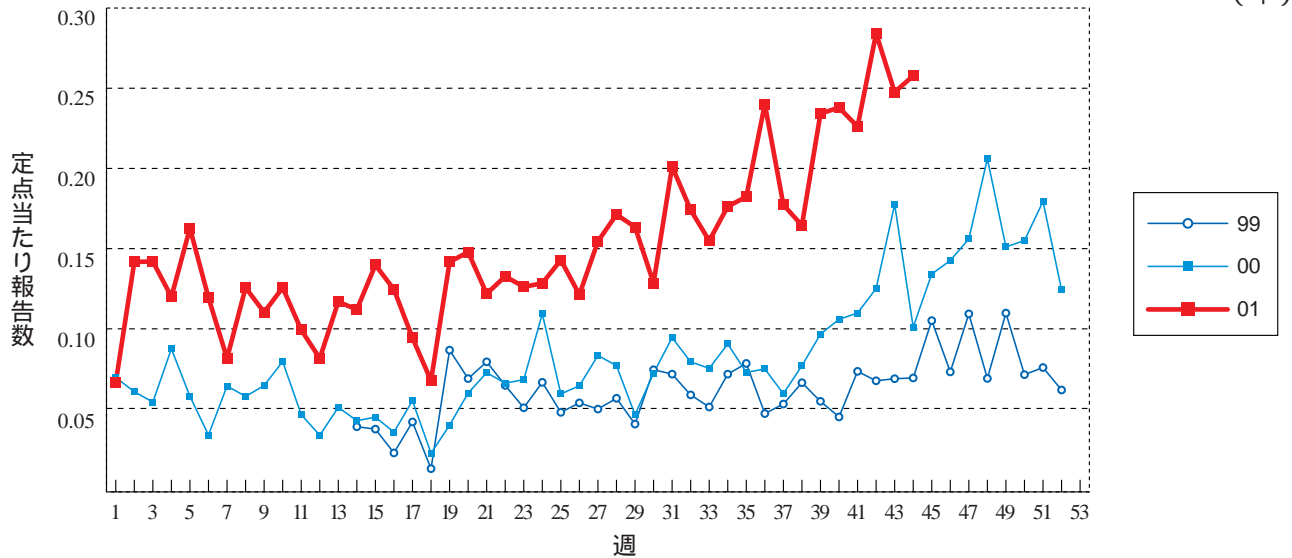


無菌性髄膜炎

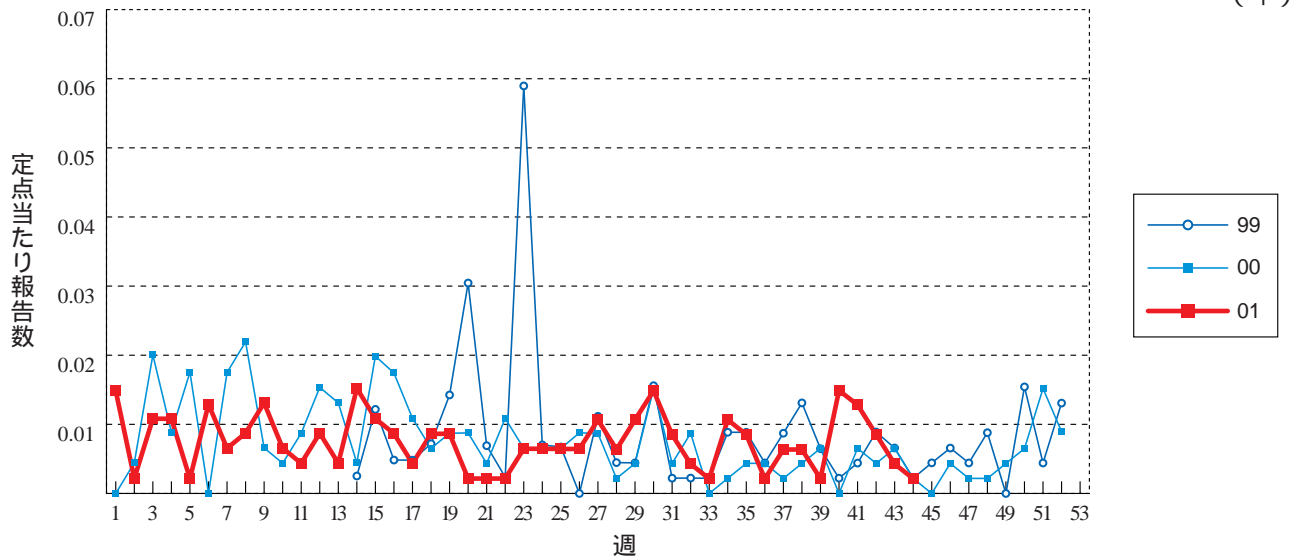
(年)



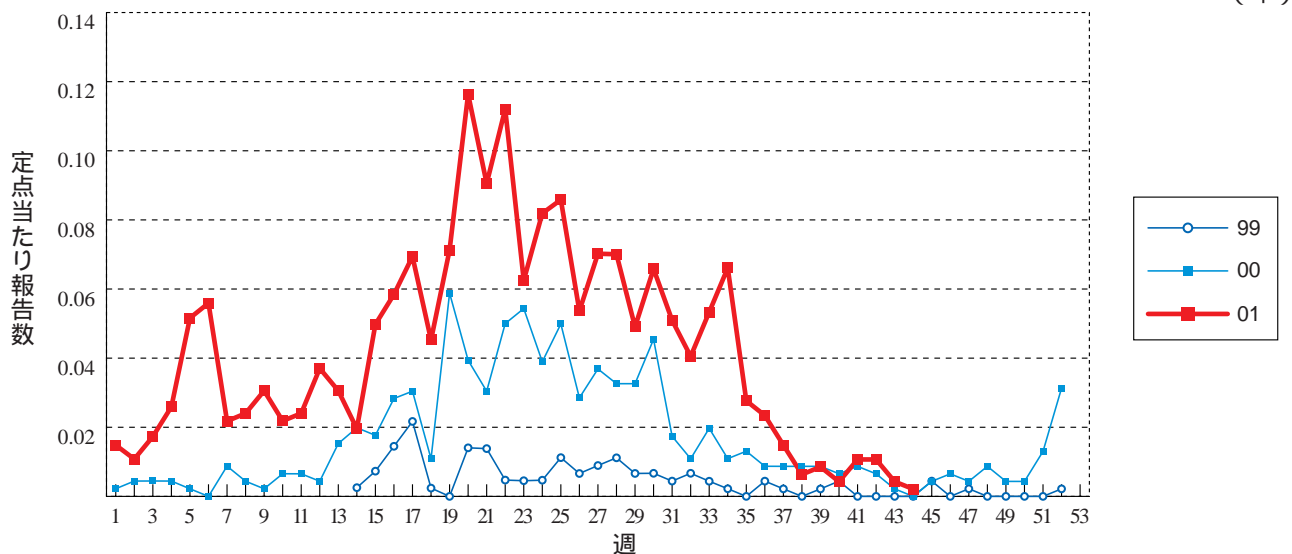
マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎 (オウム病を除く)



成人麻疹





4 4 週 の データ

注) 表中の報告数は11月9日集計分であり、その後の報告数は次週以降の累計に反映されます。

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年44週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		バラチフス		
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	45	8	554	1	58	-	18	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	19	-	3	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	2	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	11	-	2	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	2	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	24	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	34	-	4	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	1	110	1	16	-	13	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	38	-	3	-	3	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	6	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	1	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	1	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	14	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	10	-	1	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	33	-	5	-	1	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	8	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	16	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	1	48	-	7	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	28	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	6	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	2	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	23	-	1	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	5	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	12	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成13年44週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	23	4094	3	339	-	10	-	-	-	29	-	-	3	791
北海道	-	-	-	-	4	146	-	5	-	9	-	-	-	-	-	-	-	10
青森県	-	-	-	-	-	44	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	1
岩手県	-	-	-	-	-	76	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
宮城県	-	-	-	-	-	45	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	26
秋田県	-	-	-	-	-	59	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
山形県	-	-	-	-	1	58	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
福島県	-	-	-	-	-	51	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
茨城県	-	-	-	-	-	42	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16
栃木県	-	-	-	-	2	23	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
群馬県	-	-	-	-	-	86	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	22
埼玉県	-	-	-	-	-	212	-	14	-	-	-	-	-	1	-	-	-	14
千葉県	-	-	-	-	-	361	1	15	-	-	-	-	-	1	-	-	-	10
東京都	-	-	-	-	-	302	1	92	-	-	-	-	-	7	-	-	1	128
神奈川県	-	-	-	-	-	261	1	31	-	-	-	-	-	-	-	-	-	49
新潟県	-	-	-	-	2	32	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
富山県	-	-	-	-	1	88	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
石川県	-	-	-	-	1	60	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	5
福井県	-	-	-	-	-	59	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
山梨県	-	-	-	-	-	15	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
長野県	-	-	-	-	1	59	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
岐阜県	-	-	-	-	-	22	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	1	50
静岡県	-	-	-	-	-	54	-	5	-	-	-	-	-	4	-	-	-	10
愛知県	-	-	-	-	1	167	-	14	-	-	-	-	-	5	-	-	1	18
三重県	-	-	-	-	-	79	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
滋賀県	-	-	-	-	-	43	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
京都府	-	-	-	-	1	93	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
大阪府	-	-	-	-	-	330	-	52	-	-	-	-	-	4	-	-	-	84
兵庫県	-	-	-	-	2	257	-	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	71
奈良県	-	-	-	-	-	57	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
和歌山県	-	-	-	-	-	15	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
鳥取県	-	-	-	-	-	22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
島根県	-	-	-	-	-	94	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	72	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	30
広島県	-	-	-	-	-	83	-	4	-	-	-	-	-	1	-	-	-	27
山口県	-	-	-	-	-	45	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
徳島県	-	-	-	-	-	13	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
香川県	-	-	-	-	1	17	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
愛媛県	-	-	-	-	-	50	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
高知県	-	-	-	-	-	18	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	6
福岡県	-	-	-	-	-	138	-	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	49
佐賀県	-	-	-	-	4	86	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長崎県	-	-	-	-	-	76	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
熊本県	-	-	-	-	-	39	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
大分県	-	-	-	-	-	38	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
宮崎県	-	-	-	-	1	36	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
鹿児島県	-	-	-	-	-	45	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19
沖縄県	-	-	-	-	1	26	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成13年44週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプト スポリジウム症		クロイツフェルト ・ヤコブ病		劇症型溶血性 レンサ球菌感染症		後天性 免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	26	-	-	-	7	1	102	-	39	13	776	-	1	-	113	-	-
北海道	-	2	-	-	-	-	-	4	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	4	-	-	-	2	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	2	-	9	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	22	-	-	-	2	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	3	-	-	-	-	-	1	-	2	-	27	-	-	-	2	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	3	-	55	-	-	-	2	-	-
東京都	-	7	-	-	-	5	-	8	-	4	6	309	-	-	-	52	-	-
神奈川県	-	1	-	-	-	2	-	4	-	1	1	73	-	-	-	10	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	2	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	4	-	1	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-
長野県	-	1	-	-	-	-	-	2	-	2	-	16	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	5	-	-	-	-	-	2	-	1	1	16	-	-	-	2	-	-
愛知県	-	1	-	-	-	-	-	4	-	3	1	33	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	10	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	-	1	-	-
京都府	-	1	-	-	-	-	-	2	-	1	-	8	-	-	-	13	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	9	-	1	1	72	-	-	-	13	-	-
兵庫県	-	2	-	-	-	-	-	10	-	3	-	18	-	-	-	3	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	1	5	-	-	-	1	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	4	-	-	-	1	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	4	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	5	-	-	-	1	-	-
高知県	-	1	-	-	-	-	-	4	-	1	-	2	-	-	-	2	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	2	-	8	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	1	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	3	-	-	-	1	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成13年44週

	髄膜炎菌性髄膜炎		先天性風疹症候群		炭疽		ツツガムシ病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		乳児ボツリヌス症		梅毒	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	7	-	1	-	-	15	241	-	44	-	34	1	4	-	-	8	472
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	11
青森県	-	-	-	-	-	-	-	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
秋田県	-	-	-	-	-	-	1	32	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
山形県	-	-	-	-	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福島県	-	-	-	-	-	-	2	22	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	7
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-	-	8
千葉県	-	1	-	-	-	-	2	5	-	3	-	-	-	-	-	-	-	12
東京都	-	1	-	-	-	-	-	4	-	19	-	-	-	-	-	-	-	84
神奈川県	-	1	-	-	-	-	1	3	-	5	-	-	-	-	-	-	-	12
新潟県	-	-	-	-	-	-	1	29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	-	-	11	-	1	-	-	-	-	-	-	-	6
岐阜県	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
静岡県	-	-	-	-	-	-	1	9	-	1	-	-	-	-	-	-	-	8
愛知県	-	2	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	14
三重県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
京都府	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	26
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	99
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	4	-	-	-	-	-	21
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	7	-	-	-	-	-	1
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15
広島県	-	-	-	-	-	-	5	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	4
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	1	1	-	-	-	4
福岡県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-	22
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-	-	-	-	-	-	4
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
大分県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
宮崎県	-	1	-	1	-	-	-	10	-	-	-	3	-	-	-	-	-	3
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	1	25	-	-	-	7	-	-	-	-	-	4
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成13年44週

	破傷風		バンコマイシン耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発疹チフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	68	1	38	-	-	-	-	-	-	-	-	-	93	-	13	2	70
北海道	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	5	-	2
青森県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
宮城県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	3
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山形県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	4
栃木県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
群馬県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	3
千葉県	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	2
東京都	-	3	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	38	-	3	-	14
神奈川県	-	4	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1
新潟県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
富山県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
石川県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2
岐阜県	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
静岡県	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3
愛知県	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	2	8
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
京都府	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1
大阪府	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	1
兵庫県	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	3
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2
島根県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
広島県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-
山口県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
徳島県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1
佐賀県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
熊本県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
沖縄県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	2

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成13年44週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百日咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	108	0.02	156	0.05	2657	0.88	9292	3.08	3060	1.02	1853	0.61	613	0.20	2073	0.69	29	0.01
北海道	1	0.00	27	0.19	229	1.58	253	1.74	192	1.32	134	0.92	32	0.22	78	0.54	3	0.02
青森県	-	-	1	0.02	19	0.45	79	1.88	62	1.48	12	0.29	21	0.50	23	0.55	-	-
岩手県	1	0.02	-	-	24	0.65	47	1.27	91	2.46	27	0.73	7	0.19	16	0.43	-	-
宮城県	-	-	5	0.08	42	0.71	266	4.51	79	1.34	79	1.34	13	0.22	49	0.83	-	-
秋田県	-	-	-	-	36	1.03	103	2.94	34	0.97	26	0.74	27	0.77	19	0.54	1	0.03
山形県	6	0.13	-	-	99	3.30	56	1.87	59	1.97	42	1.40	4	0.13	25	0.83	3	0.10
福島県	1	0.01	-	-	31	0.65	141	2.94	69	1.44	49	1.02	16	0.33	39	0.81	-	-
茨城県	-	-	2	0.03	50	0.68	159	2.18	45	0.62	51	0.70	5	0.07	34	0.47	-	-
栃木県	-	-	2	0.04	45	0.98	119	2.59	50	1.09	2	0.04	17	0.37	36	0.78	-	-
群馬県	-	-	1	0.02	74	1.21	123	2.02	95	1.56	18	0.30	3	0.05	50	0.82	1	0.02
埼玉県	11	0.04	13	0.08	231	1.46	699	4.42	160	1.01	45	0.28	36	0.23	116	0.73	2	0.01
千葉県	2	0.01	5	0.04	130	1.02	342	2.69	117	0.92	51	0.40	33	0.26	92	0.72	2	0.02
東京都	3	0.02	10	0.07	57	0.40	392	2.76	63	0.44	37	0.26	13	0.09	71	0.50	-	-
神奈川県	2	0.01	5	0.02	176	0.85	601	2.92	126	0.61	181	0.88	22	0.11	164	0.80	-	-
新潟県	1	0.01	11	0.19	68	1.15	203	3.44	119	2.02	80	1.36	4	0.07	43	0.73	1	0.02
富山県	-	-	4	0.14	42	1.45	50	1.72	48	1.66	26	0.90	6	0.21	20	0.69	-	-
石川県	-	-	-	-	8	0.28	153	5.28	39	1.34	58	2.00	11	0.38	27	0.93	1	0.03
福井県	-	-	-	-	21	0.95	137	6.23	33	1.50	20	0.91	6	0.27	10	0.45	-	-
山梨県	3	0.07	-	-	29	1.16	26	1.04	28	1.12	1	0.04	2	0.08	7	0.28	-	-
長野県	1	0.01	5	0.09	85	1.57	217	4.02	63	1.17	83	1.54	6	0.11	49	0.91	-	-
岐阜県	2	0.03	2	0.04	31	0.66	75	1.60	52	1.11	45	0.96	24	0.51	28	0.60	1	0.02
静岡県	2	0.01	3	0.03	88	1.02	321	3.73	90	1.05	73	0.85	11	0.13	56	0.65	2	0.02
愛知県	9	0.05	4	0.02	145	0.80	392	2.15	123	0.68	144	0.79	33	0.18	123	0.68	1	0.01
三重県	-	-	1	0.03	20	0.50	182	4.55	54	1.35	26	0.65	20	0.50	51	1.27	-	-
滋賀県	-	-	-	-	11	0.35	42	1.35	21	0.68	22	0.71	6	0.19	10	0.32	-	-
京都府	-	-	1	0.01	37	0.49	312	4.11	60	0.79	74	0.97	22	0.29	38	0.50	-	-
大阪府	8	0.03	8	0.04	106	0.55	631	3.25	142	0.73	30	0.15	30	0.15	112	0.58	3	0.02
兵庫県	1	0.01	4	0.03	85	0.66	575	4.49	153	1.20	14	0.11	27	0.21	106	0.83	1	0.01
奈良県	-	-	-	-	11	0.31	117	3.34	25	0.71	38	1.09	9	0.26	16	0.46	-	-
和歌山県	-	-	2	0.06	18	0.58	67	2.16	63	2.03	10	0.32	6	0.19	25	0.81	-	-
鳥取県	1	0.03	4	0.21	42	2.21	121	6.37	33	1.74	33	1.74	3	0.16	19	1.00	-	-
島根県	1	0.03	3	0.13	5	0.22	44	1.91	24	1.04	19	0.83	2	0.09	21	0.91	-	-
岡山県	1	0.01	-	-	16	0.30	84	1.56	57	1.06	68	1.26	2	0.04	12	0.22	1	0.02
広島県	1	0.01	5	0.07	58	0.77	175	2.33	86	1.15	64	0.85	7	0.09	37	0.49	1	0.01
山口県	-	-	2	0.04	74	1.51	177	3.61	31	0.63	10	0.20	20	0.41	45	0.92	1	0.02
徳島県	-	-	-	-	10	0.43	58	2.52	23	1.00	21	0.91	7	0.30	23	1.00	-	-
香川県	-	-	4	0.13	13	0.41	106	3.31	41	1.28	53	1.66	13	0.41	19	0.59	-	-
愛媛県	-	-	8	0.21	31	0.79	161	4.13	32	0.82	18	0.46	10	0.26	33	0.85	1	0.03
高知県	-	-	-	-	34	1.10	57	1.84	17	0.55	2	0.06	8	0.26	20	0.65	-	-
福岡県	4	0.02	5	0.05	120	1.14	471	4.49	113	1.08	2	0.02	24	0.23	76	0.72	1	0.01
佐賀県	-	-	-	-	18	0.78	50	2.17	28	1.22	-	-	3	0.13	32	1.39	-	-
長崎県	2	0.03	-	-	18	0.38	83	1.73	35	0.73	25	0.52	5	0.10	20	0.42	2	0.04
熊本県	-	-	3	0.06	57	1.16	262	5.35	50	1.02	20	0.41	16	0.33	52	1.06	-	-
大分県	5	0.09	1	0.03	33	0.92	188	5.22	43	1.19	2	0.06	10	0.28	35	0.97	-	-
宮崎県	-	-	2	0.05	60	1.62	209	5.65	43	1.16	3	0.08	8	0.22	50	1.35	-	-
鹿児島県	26	0.27	3	0.05	18	0.30	145	2.42	38	0.63	11	0.18	2	0.03	36	0.60	-	-
沖縄県	13	0.22	-	-	2	0.06	21	0.62	11	0.32	4	0.12	1	0.03	10	0.29	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成13年44週

	風 疹		ヘルパンギーナ		麻 疹 (成人麻疹を除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		急性脳炎 (日本脳炎を除く)		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	26	0.01	388	0.13	115	0.04	3984	1.32	17	0.03	529	0.83	1	0.00	1	0.00	17	0.04
北海道	-	-	42	0.29	22	0.15	187	1.29	-	-	24	0.83	-	-	-	-	-	-
青森県	1	0.02	4	0.10	3	0.07	56	1.33	-	-	6	0.55	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	11	0.30	3	0.08	29	0.78	1	0.08	10	0.83	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	15	0.25	-	-	58	0.98	-	-	2	0.18	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	10	0.29	1	0.03	37	1.06	-	-	2	0.29	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	3	0.10	-	-	60	2.00	-	-	7	0.88	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	11	0.23	1	0.02	75	1.56	-	-	20	1.67	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	3	0.04	109	1.49	-	-	17	1.06	-	-	-	-	-	-
栃木県	1	0.02	-	-	1	0.02	87	1.89	-	-	17	1.42	1	0.14	-	-	-	-
群馬県	-	-	4	0.07	1	0.02	32	0.52	-	-	23	1.64	-	-	-	-	-	-
埼玉県	1	0.01	29	0.18	3	0.02	177	1.12	-	-	28	0.78	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	6	0.05	5	0.04	133	1.05	1	0.03	22	0.67	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	8	0.06	3	0.02	84	0.59	-	-	10	0.71	-	-	-	-	-	-
神奈川県	2	0.01	15	0.07	2	0.01	136	0.66	3	0.07	32	0.76	-	-	-	-	-	-
新潟県	1	0.02	5	0.08	-	-	116	1.97	1	0.11	9	1.00	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	2	0.07	-	-	123	4.24	-	-	3	0.43	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	7	0.24	-	-	180	6.21	-	-	3	0.43	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	2	0.09	-	-	25	1.14	-	-	2	0.67	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	39	1.56	-	-	1	0.33	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	3	0.06	-	-	220	4.07	1	0.10	13	1.30	-	-	-	-	1	0.09
岐阜県	1	0.02	1	0.02	4	0.09	91	1.94	-	-	8	0.73	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	6	0.07	12	0.14	133	1.55	1	0.05	12	0.60	-	-	-	-	1	0.13
愛知県	1	0.01	9	0.05	10	0.05	201	1.10	-	-	10	0.29	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	1	0.03	-	-	40	1.00	-	-	4	0.36	-	-	-	-	1	0.13
滋賀県	2	0.06	1	0.03	1	0.03	20	0.65	-	-	2	0.29	-	-	-	-	1	0.14
京都府	-	-	8	0.11	-	-	78	1.03	-	-	6	0.33	-	-	-	-	1	0.17
大阪府	4	0.02	31	0.16	6	0.03	148	0.76	2	0.04	33	0.63	-	-	-	-	1	0.08
兵庫県	1	0.01	12	0.09	1	0.01	135	1.05	-	-	23	0.66	-	-	-	-	-	-
奈良県	1	0.03	2	0.06	2	0.06	45	1.29	-	-	6	0.67	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	2	0.06	6	0.19	52	1.68	-	-	1	0.25	-	-	-	-	-	-
鳥取県	1	0.05	1	0.05	-	-	11	0.58	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	1	0.04	-	-	17	0.74	-	-	1	0.33	-	-	-	-	-	-
岡山県	1	0.02	3	0.06	-	-	60	1.11	-	-	7	0.58	-	-	-	-	-	-
広島県	2	0.03	4	0.05	2	0.03	82	1.09	2	0.10	13	0.65	-	-	-	-	2	0.10
山口県	1	0.02	16	0.33	4	0.08	23	0.47	-	-	12	1.33	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	5	0.22	-	-	53	2.30	-	-	1	0.25	-	-	-	-	2	0.33
香川県	-	-	3	0.09	-	-	60	1.88	1	0.33	14	4.67	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	10	0.26	-	-	87	2.23	-	-	18	2.57	-	-	-	-	-	-
高知県	1	0.03	4	0.13	-	-	8	0.26	-	-	1	0.33	-	-	-	-	1	0.13
福岡県	-	-	28	0.27	3	0.03	166	1.58	-	-	37	1.54	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	8	0.35	-	-	51	2.22	-	-	4	1.00	-	-	1	0.17	1	0.17
長崎県	-	-	7	0.15	6	0.13	22	0.46	3	0.30	13	1.30	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	21	0.43	1	0.02	64	1.31	-	-	14	1.56	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	11	0.31	-	-	55	1.53	-	-	2	0.40	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	4	0.11	4	0.11	80	2.16	1	0.25	26	6.50	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	8	0.13	-	-	108	1.80	-	-	5	0.83	-	-	-	-	1	0.08
沖縄県	4	0.12	4	0.12	5	0.15	131	3.85	-	-	5	0.50	-	-	-	-	4	0.57

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成13年44週

	マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻疹	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	121	0.26	1	0.00	1	0.00
北海道	1	0.04	-	-	1	0.04
青森県	-	-	-	-	-	-
岩手県	1	0.05	-	-	-	-
宮城県	13	1.08	-	-	-	-
秋田県	5	0.71	-	-	-	-
山形県	3	0.30	-	-	-	-
福島県	8	1.14	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-
群馬県	1	0.10	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-
千葉県	6	0.46	-	-	-	-
東京都	3	0.12	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-
新潟県	2	0.15	-	-	-	-
富山県	1	0.20	-	-	-	-
石川県	2	0.40	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-
山梨県	2	0.20	-	-	-	-
長野県	2	0.18	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-
静岡県	5	0.63	-	-	-	-
愛知県	5	0.38	-	-	-	-
三重県	1	0.13	-	-	-	-
滋賀県	1	0.14	-	-	-	-
京都府	1	0.17	-	-	-	-
大阪府	4	0.33	-	-	-	-
兵庫県	2	0.14	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-
和歌山県	1	0.09	-	-	-	-
鳥取県	7	1.40	-	-	-	-
島根県	5	0.63	-	-	-	-
岡山県	5	1.00	-	-	-	-
広島県	8	0.38	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-
香川県	1	0.20	-	-	-	-
愛媛県	3	0.50	-	-	-	-
高知県	5	0.63	-	-	-	-
福岡県	3	0.20	-	-	-	-
佐賀県	2	0.33	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-
熊本県	2	0.13	-	-	-	-
大分県	6	0.60	-	-	-	-
宮崎県	3	0.43	1	0.14	-	-
鹿児島県	1	0.08	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-

感染症週報 第3巻、第44号 平成13年11月16日発行
 発行：国立感染症研究所
 厚生労働省健康局結核感染症課
 厚生労働省大臣官房統計情報部
 事務局：国立感染症研究所感染症情報センター
 〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1
 T E L : 03-5285-1111
 F A X : 03-5285-1129
 U R L : <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>
 <国立感染症研究所 感染症情報センター>
<http://www.mhlw.go.jp/>
 <厚生労働省>
<http://www.forth.go.jp/>
 <旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所)>

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。